

元藩士と海軍大将

戊辰戦争の会津藩白虎隊自刃を描いた絵が会津若松市の旧家にあることが確認された。元会津藩士の渡辺東郊（とうこう）が描き、会津出身の海軍大将出羽重遠（しげとつ）が書を記すなど会津人による合作。複製画が四月にも市内の観光施設・鶴ヶ城会館で展示される。

複製 来月にも公開

「白虎隊殉難図」と題され書の部分も含めて縦百五十センチ、横百三十センチで、複製も原寸大。大正時代の作とみられ、若松城下を臨む飯盛山で白虎隊士が自刃している様子が描かれている。作者の渡辺東郊は戊辰戦争に朱雀隊士として従軍している。さらに、最上部に出羽重遠が「忠勇義烈」と記し、会津藩医だった馬島杏雨（まじま）

「白虎隊殉難図」ときょうこの「白虎隊殉難詩」が書かれています。城下の西蓮寺住職による自刃者姓名も載っている。自刃の様子は明治時代以降、多くの画家が描いているが、絵画史が専門の川延安直県立博物館主任学芸員は「ゆかりの人が描いた絵はそう多くはない。名のある会津関係者の合作である点も大きな特徴」と指摘する。白虎隊のイメージは後世の絵などによって形作られており、その過程を知る資料としても価値があるという。現在、鶴ヶ城会館の下平剛社長が所有者の了解を得て、複製の展示準備を進めている。実物も今後、県立博物館で展示することを計画している。

会津人の合作
白虎隊自刃の絵 確認



「殉難図」の複製を掲げる下平社長